

No.682

広報

平成17年 (2005年) 3月1日

市の花・つつじ 市の木・もくせい 市の鳥・ジュウカ

今号の主な内容	住民票の写しなど証明書手数料を改正 … 2面
	連載・データから見る福生市(第1回) … 3面
	国民健康保険税率等を改定 …… 4面
	児童手当制度・乳幼児医療制度 … 5面
	青少年海外派遣生募集 …… 6面
	桜まつり民謡パレード参加団体募集 … 8面

発行/福生市 編集/企画財政部秘書広報課 〒197-8501 福生市本町5 ☎042-551-1511 (市役所代表)

福生市のホームページ <http://www.city.fussa.tokyo.jp/>

3月10日は、「東京都平和の日」です

平和講演会

「今年も東京大空襲の体験談を聴こう」

日時3月6日(日)午後2時～4時 場所公民館本館(市民会館内)

講師西村信友氏(元中学校教員) 定員先着100人(直接会場へ) 問合せ公民館本館 ☎552・1711

「私は、この話をした後いつも落ち込んでしまいます。もう二度と話すまいと思ってしまうのですが、やはり、犠牲になった人の供養には、ぼくがしゃべるのが一番かなと思います。特に隣に住んでいたお母さんと子ども

心に傷を負った西村さんは、戦後教師になってもしばらくの間は生徒に空襲体験を話すことはありませんでした。しかし、後年、空襲の惨禍を伝えることが亡くなった方たちへの供養になると思うようになったそうです。

当時15歳だった西村さんは猛火に追われて自宅の防空壕に集まってしまった近所の人たちを「ここも火に包まれる」と逃げてもらい、最後まで火におびえて逃げ出せなかった隣の母娘も半ば無理やり追い出しました。ようやく、西村さん一家も壕を出て逃げようとするのですが、降り注ぐ焼夷弾と猛火に包まれてしまい、しかたなく壕に戻ります。死と隣合せの壕内。結果的に西村さん一家は助かりましたが、隣の母娘は戻りませんでした。

この日は今から60年前、東京が大空襲を受けた日です。昭和20(1945)年3月10日、アメリカ軍のB29爆撃機280機による2時間半に及ぶ爆撃で、東京の城東地区(墨田区・江東区・台東区・中央区など)では、罹災者100万人以上、そして10万人以上もの尊い命が奪われました。広島・長崎の原爆被害にも匹敵するほどの惨状を呈しました。

この大都市への夜間無差別爆撃に続き、日本各地への無差別爆撃が行われました。福生市でも4月・8月に爆撃を受け、犠牲者が発生しています。

この講演会では、中学生のときに深川で空襲に遭われた西村氏から、当時の貴重な体験談をお聴きします。

今あらためて、戦争の悲惨さ・愚かさ、そして平和の尊さ、命の尊さを考えてみませんか。学生のみなさんも、ぜひ参加してください。

平和パネル展

「大空襲後の東京」

大空襲後の惨状を呈した東京を写真パネルで紹介いたします。

なお、今年、東京都が主催する「東京空襲資料展」とあわせて展示を行います。高射砲弾の破片、空襲で焼けた硬貨や万年筆、罹災証明書、衣料切符など当時の貴重な資料を展示します。

どうぞ、お越しく下さい。

期間3月3日(木)～21日(月)※7日と14日の月曜日は休館です。

場所公民館本館展示室(市民会館内)



▲焼けた万年筆(曲がり、溶けている部分もあります。)(東京都所蔵)

もは、この話をしていくことで、許してくれるのかなと考えています。(中略)

戦争には正義も、不正義もありません。やっていることは両者とも同じです。正義の側だからといって人道的できれいな戦争をするわけではありません。そんな戦争と言うのはこの世には存在しません。私の話からこんなことがわかっていただけたら幸いです。」

(平成12年開催「平和講演・東京大空襲を語る」講師・西村信友氏「記録より」)

東京大空襲を体験された西村信友氏の案内で、空襲被災地・深川(都民の方がつづった空襲体験記に記された場所)を訪ねます。

日時3月13日(日)午前8時10分集合(時間厳守・午後6時ごろ解散予定)

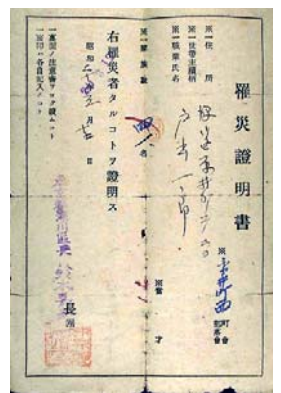
集合場所拜島駅西武線ホーム(後方)集合定員15人

参加費200円(保険代)、交通費などは自己負担

※小雨程度の場合は決行

申込み3月3日から公民館本館へ。

平和フィールドワーク 「空襲被災地・深川を歩く」



▲罹災証明書(東京都所蔵) 「深川区」の文字が読み取れます

このところ、子どもに関する悲惨な事件が、次々に起こっています。自己規制が働かないのでしょうか。

人は、産まれてからしばらくは何でも許される時期がありますが、それを過ぎると社会的ルールや人間としてのあり方に規制されます。

一時代前の高度成長期には、何でも許され、できるといったルールや人間性を軽視する考え方があったと思います。

環境問題もそうですが、いまそれらの結果がはじまりつつあると言えるかもしれません。

子どもにとっての家庭、地域環境の大事さを象徴しているように思えます。

子どもを抱きしめる、離れて見守り、間違いを正すという簡単なことができなかった家庭、地域(大人)に責任があるのでしよう。子どもは親をはじめとする環境を選べませんから。

我々一人ひとりが、自分の人間としての責任を考える必要がありそうです。自らしなければ始まりません。

きんもくせい



福生市長 野澤久入

福生市のホームページアドレスは <http://www.city.fussa.tokyo.jp/> です